



大好き札幌

「大好き」だからこそ やりたい事があるのです。

札幌市議会議員

中川賢一 けんいち

平成28年度 第1回市議会定例会報告

秋元市政下での最初の
本格予算がスタート

平成28年札幌市第一回定例会市議会（一定議
会）が2月17日から3月29日まで約1ヶ月半
にわたり開かれました。一定議会は翌年度の
予算を審議する大切な定例会です。

アベノミクスの政策効果もあって回復傾向
にある札幌市の経済の足取りを今後もしっかり
りと軌道に乗せていくため、28年度の一般会
計予算は前年度3.9%増の9366億円と、
高齢者福祉や障害者福祉、子ども・子育てな
ど市民の暮らしを支える施策の充実に加え、
学校の新増築などの景気刺激策も盛り込まれ
た内容となっています。

一方で、積極財政に伴って、市の借金であ
る市債の残高は前年比1.2%増の1兆73
61億円となっており、今後も財政規律を堅
持し、将来に過度な負担を残さないために政
策にメリハリを付けることが重要であり、新
たな寄付のあり方など歳入確保に向けた知恵
が求められています。

予算特別委員会にて 会派最多の質疑を展開

各部局の予算案等を個別に審議する予算特
別委員会においては、私は会派最多の7回質
問に立ち、大きく12件のテーマについて積極
的に質疑を行いました。

地方創生が叫
ばれる中、地方
自治体は地域の
強みを生かして
自ら稼ぎ、同時
に最小のコスト
で最大の効果を
目指す「経営力
」が試されていま
す。主にそのよ
うな視点から、
市職員と経営意
識を共有するべ
く議論をさせて
いただきました。



主な質疑内容

高齢者介護予防・認知症予防の推進について

認知症高齢者は10年度の2015年には
700万人を突破すると予測されている。
要介護状態も認知症も、糖尿病などの生活
習慣病が共通して主要な要因であり、その
予防法も急激に発達してきていることから、
札幌市の介護予防・認知症予防を一体で見
直し、具体的な予防策を介護の現場に浸透
させていくべきではないか。

【成果】リハビリ専門職や栄養士など保健医
療の視点を重視し、高齢者の生活全体の活
性化を図るよう介護予防事業全体の再編を
検討していくことになりました。運動メ
ニューの教材を作成し広く配布するなどし
て、地域全体に予防活動が浸透するよう取
り組んでいくことになりました。

雪対策事業について

①産業経済活動への影響検討について
限られた予算の中で雪対策事業を効果的に
推進していくためには、降雪が市民活動や
経済に与えている影響などをできるだけ数
字で把握することが重要ではないか。

【成果】降雪の経済的影響を把握するのは極
めて難しい作業ですが、どのような方法が

考えられるのか検討していくという、チャ
レンジする姿勢を引き出すことができました。

②今冬の少雪による影響について

除排雪事業者は市との契約で想定した事業
量に基づいて予め人員や機械を確保するの
で、少雪で収入が減ると経営への影響は大
きい。気候変動に左右される経営リスクに
対して、何らかの配慮が必要ではないか。

【成果】地域中小企業の経営実態は、行政が
机上で判断する以上に不安定であることを
理解していただき、今冬のイレギュラーな
少雪を契機として、事業者の実態をしっか
り把握していくことを確認しました。

札幌国際芸術祭への取り組みについて

2017年の第2回札幌国際芸術祭に向け
ては、前回開催の結果を経済界や観光関連
業界など幅広い市民の意見を聞いてしっか
りと評価し直し、反省点を改善しながら真
に価値あるイベントに育て上げていくべき
と考える。

【成果】経済団体やホテル、タクシー、旅行
会社など、前回開催では関わりの薄かった
業界にヒアリングを行った結果多くの厳し
い意見と課題が浮き彫りになったことから、
次回開催に向けては幅広い事業者や市民と
協働していくという姿勢を引き出すことが
できました。

札幌市民交流プラザの事業展開について

北1条西1丁目建設中の札幌市民交流プ
ラザは、260億円以上の建設費を投じた
上、計画段階から毎年10億円以上の運営赤
字を見込んでいたという採算無視の姿勢は
問題である。採算改善に資する多様な利用
を、文化・芸術事業のみに固執せず、幅広
い観点から検討し、都心の賑わいを効果的
に創造すべきと考える。

【成果】文化・芸術の関係者のみで検討して
きたこれまでの枠組みに加え、経済界や観
光など多様な業界の方々の視点をどう取り
入れていくか、具体的な手法を検討するこ
ととなりました。

これらのほか、オリンピック招致に向けて
の民間資本を活用した施設整備や、市電や水
道事業などの公営企業の収益改善に向けた前
向きな事業展開など、コストをしっかり意識
したうえで未来へ知恵を絞ることを中心に活
発な議論をさせていただきました。引き続き
これら事業の行く末にしっかりと働きかけ
ていきます。

札幌市議会議員

中川賢一 けんいち

中川賢一 市政務所

〒064-0920 札幌市中央区南20条西6丁目4-10

TEL 011-520-0001 FAX 011-520-8888 URL daisuki-sapporo.net

中川 賢一 プロフィール

kenichi nakagawa profile

1967(昭和42)年1月9日 札幌市生まれ ●緑が丘小学校、伏見中学校、札幌南高校卒業/東北大学経済学部経済学科卒業/シンガポール国立大学エクステンション・プロフェッショナル・ディプロマ・アジア・パシフィック・マーケティング終了 ●平成元年 北海道拓殖銀行入行/平成6年 北海道庁奉職・主に経済政策、観光、国際ビジネス支援などの分野に従事/平成15年 北海道シンガポール事務所駐在員・道庁退職後、札幌国際大学非常勤講師(国際観光)、札幌商工会議所付属専門学校北海道観光学科講師、食品企画開発・輸出、経営コンサルティングなどに従事 ●平成27年 札幌市議会議員 当選(1期目) 札幌市議会総務委員会委員、総合交通調査特別委員会委員 ●(公職) NPO法人コンパサーレ(障害者職業訓練・就業支援)理事/一般社団法人北海道農水産物事業者協会顧問/一般社団法人ビジネスコミュニケーション協会顧問/一般社団法人北海道タイ親善協会理事/鴨々川を清流にする会顧問 その他 ●(好きな言葉)しあわせはいつも自分の心が決める ●(家族)シンガポール出身の妻と一男一女/愛犬2頭 ムギ&ホップ(双子のゴールデンレトリバー)

大好き札幌
通信
(平成28年夏号)

青少年のスポーツ振興

札幌ジュニア空手道大会

今年から札幌ジュニア空手道大会の大会副会長を務めさせていただいています。礼節を大切にしている日本の伝統武道らしく、キビキビとした子供たちは見ていて本当に気持ちがいいです。直接相手とのコンタクトがないので怪我也も少なく、青少年のスポーツ振興にもってこいの競技かもしれません。

意外かもしれませんが空手は全世界で競技人口約6000万人もいるかなりメジャーなスポーツで、2020年東京オリンピックで追加競技にもなる見込みです。ここから未来のオリンピック選手が出ることもちよっぴり期待したいですね。



郷土の歴史を大切に

開拓判官 島義勇公を祀る

4月13日、開拓判官島義勇顕彰の集いに参加しました。札幌の礎を築いた島判官は、北海道神宮内にある「開拓神社」に祀られ、札幌市役所ロビーにも銅像が置かれています。出身地の鍋島藩、現佐賀県からも佐賀市長、市議会議員、県副知事ほか大勢の方々が遠路お越しになりました。私の地元山鼻の祭典区でも島判官を神輿に頂いており、山鼻からも多くの関係者が参加しました。

私の友人が一昨年出版した漫画「島義勇伝」は、佐賀県、佐賀市では推薦図書としていっているなど、かの地の歴史に対する思いや誇りの深さには、改めて学ばされるものがありました。札幌でも市民の歴史への愛着をもっと深め、子供達に受け継いでいくよう努めていきたいと思っています。



人生の再チャレンジを支援

平成駆け込み寺

世の中には様々な悩みを抱えながら生きている人が沢山います。元ヤクザで教会の教えに救われた経験を持つ鈴木啓之牧師は、そんな人たちのため全国各地を飛び回り講演活動や人生の再出発のための活動を行っています。最近よくテレビにも出演していますので、ご存知の方も多いと思います。

その鈴木牧師は、札幌で悩みを抱える方々に救いの手を差し伸べるべく「平成駆け込み寺」を運営しており、先日その活動2周年記念講演会が行われました。この2年間、飛行機が欠航にならない限り毎週日曜日に来札して礼拝を行い、傷ついた人達に寄り添ってこられた姿を私も拝見してきました。「札幌に私のような人間がいつか必要なくなることを夢見て、これからも通い続ける」という鈴木先生の活動をこれからも応援していきます。



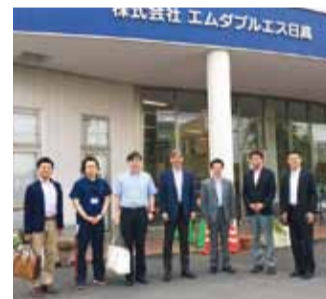
「平成駆け込み寺」札幌シロアムキリスト教会
札幌市中央区南7条西8丁目LC拾八番館5F
<http://www.heisei-kakekomidera.com>

高齢者介護予防・認知症予防は急務の課題

6月8日・9日と高齢者介護の最先端の取り組みを研究するため、群馬県高崎市のデイサービス施設「日高デイトレセンター」と、東京江戸川区を中心に介護事業や保育園を展開する「アゼリーグループ」を視察させていただきました。

日高デイトレセンターは、高齢者の機能改善に徹底的にこだわりの、次々と業界の常識を覆す事業アイデアを実現しながら先進的な施設経営を行っている法人です。最大定員400名の大規模施設は、シミュレーションゴルフなど多様なメニューが充実したまさに次世代型デイサービス。地域のスーパーと提携した移動販売車による買物リハビリ、スポーツジムの地域の中高生への夜間解放など、福祉事業の壁をどんどん突き破るアイデアで、利用者のメリットと収益確保を両立しています。

アゼリーグループの特徴は外国人の活用。今後生産年齢人口が激減することが避けられない中、外国人、シニア、障害者など様々なプロフィールの人財を活かす取り組みを行っています。また、介護と保育の一体経営、すなわち「老保一体経営」によってスタッフに企業内保育を提供するなど、働きやすさを追求する経営理念が功を奏し、人材不足が深刻な当業界では珍しく優秀な人材が自然と集まっています。



中川賢一市政事務所移転のお知らせ

5月16日、事務所を移転しました。南20条西6丁目4-10、市電の「幌南小学校前」停留所からすぐです。地域の方々との情報交換、市政相談のスペースが以前より少し広くなりましたので、多くの方にご利用いただきたいと思います。是非お気軽にお立ち寄り下さい。



中川とともに「地方創生」を!

安倍総理が掲げる「地方創生」。これからの日本を支えるのは地域の力です。南北に長い日本には、多様な地域の個性と営みがあります。これらの多様な力が日本再生の原動力となるはず。日本の最も北に位置する北海道。大きな可能性を有するこの大地を牽引するのが札幌の使命であり、我々が動かなくてはなりません。私中川は地域の皆さんの声に耳を傾け、ともに知恵を出し、汗をかき、札幌発の「地方創生」を進めていきたいと考えています。一緒に札幌の未来を創り上げていきましょう!

